

第三十回

香川の伝統的 工芸品展



香川漆器 欄間彫刻 組手障子 肥松木工品 志度桐下駄
讃岐一刀彫 菓子木型 讃岐提灯 一閑張 丸亀うちわ
竹一刀彫 古式畳 理平焼 讃岐装飾瓦 讃岐鋳造品
保多織 讃岐のり染 高松張子 高松嫁入人形 張子虎
讃岐かがり手まり

●制作実演 ●新作・干支作品展示

平成26年

11月14日(金)～20日(木)

午前10時～午後7時 ※最終日は午後5時閉場

高松三越 新館5階催物会場 **入場無料**

オリーブ染革小物、藍染、砥部焼、土佐刃物など
「SHIKOKU CRAFT2014」同時開催

主催●香川県

協賛●(株)高松三越 後援●香川県市長会・香川県町村会・
一般財団法人伝統的工芸品産業振興協会・香川県商工会議
所連合会・香川県商工会連合会



香川の伝統的工芸品展

丸っこい山が点在する風景と、一年中温かく雨の少ない気候の中、香川では多くの職人技がおおらかに育まれ、手から手へと受け継がれました。また、瀬戸内海を舞台に貿易の拠点として開けていたため、他所からもたらされる新しい素材や技術を面白がり、いち早く自分たちのものにする気質もありました。このような土地柄で独特の発展を遂げた伝統的工芸品は、今でも暮らしの中で愛され続けています。

県ではこれらの全国に誇りうる伝統ある工芸品を「香川県伝統的工芸品」として指定する制度を設け、現在38品目を指定し、その普及を図っています。今回は制作実演等を通して工芸士や工芸品と身近に接していただくとともに、高度な伝統技術による作品をはじめ、現代感覚あふれる作品もご紹介いたします。

■香川漆器：出展者 香川県漆器工業協同組合

●経済産業大臣指定伝統的工芸品(昭和51年2月26日指定)
香川漆器は、高松藩主が振興・保護し、玉椿象谷が中国伝来の漆技法に独自の技を加えて新しい手法を創案しました。蒔絵・存清・彫漆・象谷塗・後藤塗の5つの技法は国の伝統的工芸品に指定されています。

■欄間彫刻：出展者 香川県欄間彫刻組合、小比賀正

通風や採光のための欄間彫刻は、寺院・神社・書院造りに取り入れられ、桃山時代から江戸時代に最も栄え、後に一般家庭にも普及しました。木目を活かし、室内に花鳥風月を取り入れた様子は、伝統の風格を感じさせます。

■組手障子：出展者 香川県アースリウッド協同組合

日本建築の室内で、柔らかい光を通しながら、間仕切りの役割を果たす障子は、鎌倉時代に作られ始めたとされています。その装飾(組手加)にも工夫が凝らされて現在に至っています。

■肥松木工品：出展者(有)クラフト・アリオカ

肥松とは、樹齢数百年の老松の幹の中心部分のことで、脂分を多く含むため光沢があり、光にかざすと赤く透けます。木目の美しさと年月を経るほどに、さらに艶が出て美しい赤茶色に変化する特徴があります。

■志度桐下駄：出展者 志度桐下駄製造組合

さめき市志度では、明治40年頃に桐下駄が作られはじめ、現在は全国に誇る産地となっています。熟練の職人技で、約40名の工程を経て作られる桐下駄は、木肌の温もりと粋を感じさせてくれます。

■讃岐二刀彫：出展者 上野勲

肥松や楠に、大胆さと繊細さが調和したノミの刃痕を活かして仕上げる讃岐二刀彫は、天保8年、金刀比羅宮の旭社建立時に、全国から集まった宮大工が、彫の腕を競い合ったのが始まりと言われています。

■菓子木型：出展者(有)市原

菓子木型は江戸時代に作られ始めたといわれ、香川県では明治30年頃から作られています。樹齢約百年の山桜を用い、花などの図柄を何種類ものノミ、彫刻刀で、左右、凹凸を逆に彫っていきます。

■讃岐提灯：出展者 三好正行

讃岐提灯は、香川県独自の秘伝一本掛けの技で竹ひごを変幻自在に操り、提灯と提灯を組み合わせて製作します。四国八十八箇所を奉納提灯として伝承したとされ、他県にない「子相伝」の技が受け継がれてきました。

■一閑張：出展者 一閑張屋

一閑張には、かみや血などの小物から家具まで多彩な製品があり、木や竹で作った生地に和紙を張り重ね、柿渋を塗って仕上げます。防水効果がある柿渋は、耐久性を高めるだけでなく、独特の風合いも醸し出しています。

■丸亀うちわ：出展者 香川県うちわ協同組合連合会

●経済産業大臣指定伝統的工芸品(平成9年5月14日指定)
丸亀うちわは、江戸時代、二九ら参りの土産品として、「盃」の文字入りのうちわが全国に広まったのが始まりです。丸亀の地場産業であり、現在では日本の9割が生産され、国の伝統的工芸品に指定されています。

■竹刀彫：出展者 西村文男

讃岐の竹彫は、香川漆器の始祖である玉椿象谷が確立した「讃岐彫」が起源といわれています。丸みがあり、繊維が多いので、難しい竹彫りですが、驚くほど細かな描写で、竹の持つ優しさと強さが生かされています。

■古式畳：出展者 香川県古式畳協同組合

公家や武家、神社などが格式ある空間づくりに用いた古式畳は、形も様々なものがあり、雅やかな柄生地を使い縁取りされているのも大きな特徴です。現代の生活に取り入れやすい製品も数多く作られています。

■理平焼：出展者 紀本洋子

高松藩主の松平頼重が、都の陶工、森島作兵衛を呼び寄せて焼かせたのが始まりとされ、藩の焼物として受け継がれてきました。季節感にあふれ、郷土色豊かな絵付けがされた茶道具や花器が作られ、珍重されています。

■讃岐装飾瓦：出展者 神内俊二

香川では、奈良時代から盛んに瓦が製造されており、各時代の窯跡も数多く発掘されています。魔除けとして配置される鬼瓦のほか、装飾瓦やいぶし瓦など種類が豊富で、動物や縁起ものなど、デザインも多彩です。

■讃岐鋳造品：出展者(有)宮本合金

讃岐鋳造品は、手作りの原型に溶かした金属を流し込み、成形して着色します。一貫して鋳物師(いもじ)が携わり、仏像や梵鐘、器のほか、秋祭りの獅子舞に使われる鉦(かね)も伝統的な鋳造製品です。

■保多織：出展者(株)岩部保多織本舗

保多織は、甚盤の目のように織られるため独特の風合いがあり、保温性・吸水性に富む織物です。丈夫で長く使え、「多年を保つ」のでこの名がついたと言われ、おめでたいものとして贈答品にも用いられます。

■讃岐のり染：出展者(有)大川原染色本舗

のり染は、もち米で作った防染のための糊を、筒描きや型紙により模様状に布地に置き、藍がめにつけたり、刷毛で染め上げて染め上げるもので、暖簾や法被、ゆたなど様々な染物が作られています。

■高松張子：出展者 乃村七重、臼井勲

高松市では、昔から人形作りが盛んで、粘土や木の型に和紙を貼り重ねて作ったものが張子と呼ばれています。「おまきさん」の伝説にちなんで「春公さん」は、ほのぼのとした表情で、多くの人に愛されています。

■高松嫁入人形：出展者 宮内張子

高松市には古くより、婚礼の際に花嫁が近隣に人形を配る風習があり、練り物による人形が作られてきました。様々な型に原土をつめて型取りし、地塗りや彩色を施して仕上げるもので、郷土玩具として受け継がれています。

■張子虎：出展者 田井民夫

張子虎は、中国の虎王崇拝が日本に伝わり、作り始められたと言われています。虎の武勇にちなんで子どもの健やかな成長を願い、端午の節句、八朔祭の飾り物として、古くから愛用されてきました。

■讃岐かがり手まり：出展者 讃岐かがり手まり保存会

平安時代に中国より伝えられたと言われており、時代を経るうちに我が国独特の美しい文様が考案されました。香川の手まりは、綿の糸を草木染めし、ひと針ひと針かがりながら、艶やかな幾何学模様を描き出します。



香川の伝統的工芸品

※今回出展品目のみ